

自己表現や状況説明のできる生徒の育成

—スピーキング活動を通して—

1 設定理由

2020年に行われる東京オリンピックに向けて、外国語教育の関心が高まっている。これを絶好の機会と捉え、生徒の視野を世界へと広げ、国の垣根を超えて活躍できる国際人の育成に取り組んでいきたい。

平成28年度英語教育改善のための英語力調査事業報告では、生徒の英語力について特に「話すこと」「書くこと」が課題であるとした。また、本校2学年126名を対象にしたアンケート調査によると、4技能の中で一番身に付けたい技能は「話すこと」と回答した生徒が一番多いにも関わらず、「話す」活動に対して抵抗感を示している生徒が多数を占めているという現状も分かった。そこで、英語に苦手意識を抱えている生徒や、コミュニケーション活動に難色を示す生徒でもとりくみやすいよう活動に工夫を加えることで、英語でコミュニケーションを取ることへの意欲が高まり、自己表現や状況説明のできる生徒の育成へとつながるのではないかと考え、本主題を設定した。

2 研究仮説

- (1) 英語でのQ-A活動を継続的に行えば、英語で話すことへの抵抗感が少なくなり、英語で自己表現することに意欲的になるであろう。
- (2) フォーカス・オン・フォームを意識したスピーキング活動を行うことで、場面に応じた適切な表現を用いて意欲的に会話ができるようになるであろう。

3 研究内容

- (1) 生徒の実態
- (2) 帯活動での継続的・系統的なQ-A活動
- (3) フォーカス・オン・フォームを意識したスピーキング活動
- (4) 家庭学習とリンクさせた語彙力向上に向けた活動

4 結論

- (1) 継続的・系統的なQ-A活動や、フォーカス・オン・フォームを意識したスピーキング活動を行ったことで、生徒の英語学習への関心が高まり英語で自己表現することに意欲的になった。
- (2) 「話す」活動を行うなかで、生徒自ら「聞く」ことの重要性に気づき、話す内容や相手を意識した振り返りのコメントが多くなった。
- (3) 英語学習に対して苦手意識を持つ生徒に対する指導の手立てについては、今後も検討を重ねる必要がある。

夷隅支部
いすみ市立大原中学校
元 吉 なつ 美

1 主題設定の理由

日本国内ではサービス業における多言語化をはじめ、急速なグローバル化がすすめられているところである。さらに、2020年に行われる東京オリンピックのサーフィン競技が地元で開催されるという決定を受け、世界中から多種多様なお客様を迎えるオリンピックという一大イベントが、本校生徒にとって近い存在になったことは間違いない。これを絶好の機会と捉え、生徒の視野を世界へと広げ、国の垣根を越えて活躍できる国際人の育成に取り組んでいきたい。

平成28年度英語教育改善のための英語力調査事業報告では、生徒の英語力について特に「話すこと」「書くこと」が課題であるとした。その要因として、「話すこと」においては、授業の中で「与えられた話題について、(特に準備をすることなく)即興で話す経験が少ない」「英語でスピーチやプレゼンテーションをする経験が少ない」ことが挙げられた。

本校2学年126名を対象にしたアンケート調査によると、4技能の中で一番身に付けた技能は「話すこと」であると回答した生徒が一番多く、その理由として「外国人と話してみたい」「話せたらカッコいい」などが挙げられた。しかし同時に、「話す」活動に対して抵抗感を示している生徒が半数以上いるという現状も分かった。そこで、英語に苦手意識を抱えている生徒や、コミュニケーション活動に難色を示す生徒でもとりくみやすいよう活動に工夫を加えることで、英語でコミュニケーションを取ることに意欲が高まり、自己表現や状況説明のできる生徒の育成へとつながるのではないかと考え、本主題を設定した。

2 研究仮説

- (1) 英語でのQ-A活動において、学習者の気づきを呼び起こすような教師の発言を繰り返すことで、英語で話すことへの抵抗感が少なくなり、英語で自己表現することに意欲的になるであろう。
- (2) フォーカス・オン・フォームを意識したスピーキング活動を行うことで、場面に応じた適切な表現を用いて意欲的に会話ができるようになるであろう。

3 研究内容

- (1) 生徒の実態
- (2) 帯活動での継続的・系統的なQ-A活動
- (3) フォーカス・オン・フォームを意識したスピーキング活動
- (4) 家庭学習とリンクさせた語彙力向上に向けた活動

4 実践

- (1) 生徒の実態 (平成29年4月初旬 本校2学年126名対象)

明るく活発で、全般的に授業に積極的に参加する姿勢が見られる。英語の授業では、苦手意識を持っている生徒が多いためか、手を挙げて発表したり、積極的に発言したりすることはまだ少ないものの、「できた」という喜びを次の学びへとつなげられる素直さがある。現状では、一番の課題は学力差の広がりであり、若干名ではあるものの、学習全般に無気力で諦めがちな様子が見受けられる生徒もいる。仲間どうしで相談したり、教え合ったりする場面をつくりながら授業を進めていく必要性を感じている。

① アンケート調査（資料1）

アンケートの結果から、英語学習の必要性を感じている生徒が非常に多く、一番身に付けたい技能は「話すこと」であると回答した割合が高かった。しかし同時に、話す活動に苦手意識を持っている生徒が半数以上おり、その理由の大半は、間違えることへの恐怖感であった。そこで、英語学習や話す活動に苦手意識を持っているような生徒もとりにくみやすいような工夫を加えることで、少しでも英語を使うことへの抵抗感を減らしたいと考えた。また、英語でコミュニケーションを取ることが楽しいと感じてほしいという願いもあり、話す活動を主とした実践を進めることとした。

② スピーキングテスト （4月）（資料2：評価シート）

「Vong先生ともっと仲良くなるために、自分のことを知ってもらおう！」というテーマで一対一でのテストを行った。

時 間：制限時間1分間。

内 容：簡単なあいさつや自己紹介をはじめとする Q-A 形式の質問を20題用意。全ての内容は既習事項が使われている。

評 価：A・B・Cの3段階で評価。

A=文を用いて正しく答えられている

B=単語のみで答えるなど不十分である

C=沈黙が続き答えることができない

その他：ALTの質問後3秒経過しても答がない場合には次の質問に進むこととした。

“Please say again.”などの要求があった場合のみ質問を繰り返すこととした。

スピーキングテスト後に自己評価と、感想を書かせた。

・テスト後の自己評価

「また英語で話してみたいですか？」という質問に対する生徒の評価(ABCD)と理由

Aまたやってみたい 20

Bまあやってみたい 28

Cどちらかといえばやりたくない 42

Dやりたくない 36

0 5 10 15 20 25 30 35 40 45

【Aと答えた生徒】

- ・すらすら話せるようになりたいから
- ・今回できなかったところをできるようにしたいから

【Bと答えた生徒】

- ・英語は苦手だけど、話せたほうがいいかなと思うから

【Cと答えた生徒】

- ・もっと難しくなりそうだから

【Dと答えた生徒】

- ・緊張するし、先生の言っていることが全然理解できなかったから
- ・できる気がしないから、やりたくない

(2) 帯活動として継続的・系統的なQ-A活動（資料3）

毎授業の最初の5～10分間に「Let's Speak English!」と名付けたQ-A活動を行った。昨年度末に行われた学力テストの結果を受け、中学英語の基礎となる1学年時の学習内容に不安がある生徒が多いことから、扱う内容は既習事項から始めることにした。1枚のワークシートに10問程度のQ-Aがあり、それを約2週間継続して行った。1週間の終わりに、教員と生徒が一对一で簡単なスピーキングテストを実施することで、評価につながった。授業の最初に行うことで、教室を活気づけること、そして、ワークシートに書いてあることをそのまま声に出して読むだけというシンプルな活動を通して、多くの生徒が、英語で話してみることに抵抗感をなくすことをこの活動の主な目的とした。また、時には新しい文法の導入へつなげるための復習として用い、効果的に学習を進められるようにした。

【活動の手順】

- ①ワークシートの配布・全体での音読練習
- ②ペアでじゃんけんをして、質問者(勝ち)と回答者(負け)を決めてすらすら読めるように練習—3つのポイント(アイコンタクト・声の大きさ・スムーズさ)に注意させる
- ③質問者・回答者の役割を交代したら再度練習させる
- ④ペアを変えてもう一度繰り返す
- ⑤活動後に3つのポイントに基づいて自己評価させる

基本的な流れはこのようなものである。毎時間、飽きずに繰り返し行えるように下のような様々な工夫を段階的に取り入れた。生徒の様子を見ながら、1枚のワークシートにつき平均2回、簡単なスピーキングテストを行った。

- 1 読み終わったペアから手を挙げるように指示し、順位をつける
- 2 時間制限を設け、時間内にクリアできたペア数を数える
- 3 質問者(回答者)は紙を見ないように指示し、内容を思い出しながら答えられるようにする
- 4 質問者に順番通りではなくバラバラに質問させ、相手の言っていることを理解して解答できるようにする
- 5 両方とも紙を見ず、実際に近い形で会話を続けられるようにする
- 6 回答者は、紙に書かれている内容を自分なりにアレンジして言えるようにする
Ex) I like tennis. → I like soccer.
- 7 質問者は、回答者の言ったことに対して相づちが打てるようにする
Ex) Really? / That's great. / Do you? / Me too.
- 8 質問者は、回答者が言ったことにオウム返しができるようにする
Ex) I like tennis. → Oh, you like tennis.
- 9 質問者は、回答者が言ったことに対して+1文付け加えられるようにする
Ex) I like tennis. → Why do you like tennis?
- 10 回答者は、質問に対する基本的な回答(Yes/Noなど)のあと、さらにもう一文付け加えられるようにする。

Ex) Do you like tennis? → Yes, I do. I like soccer too!

→一度目は即興で行わせ、その後言い表せなかったことを英文で書かせる。

ALTの添削後、再度すらすら読めるよう練習を繰り返す。

<生徒のワークシートとALTによる添削>

Let's Speak English Vol.2 be動詞を使って話してみよう。

③ What sports do you play?

③ I play volleyball.

+1 I play tennis very good.

④ Are you a good volleyball player?

④ Yes, I am.

+1 No, I'm not. I play tennis.

⑤ Are you a high school student?

⑤ No, I'm not.

+1 No, I'm not. I am high school student.

まだ、be動詞と一般動詞の使い分けができていない。必要に応じて全体で文法事項を振り返り、1年次に習ったことを復習する機会とした。

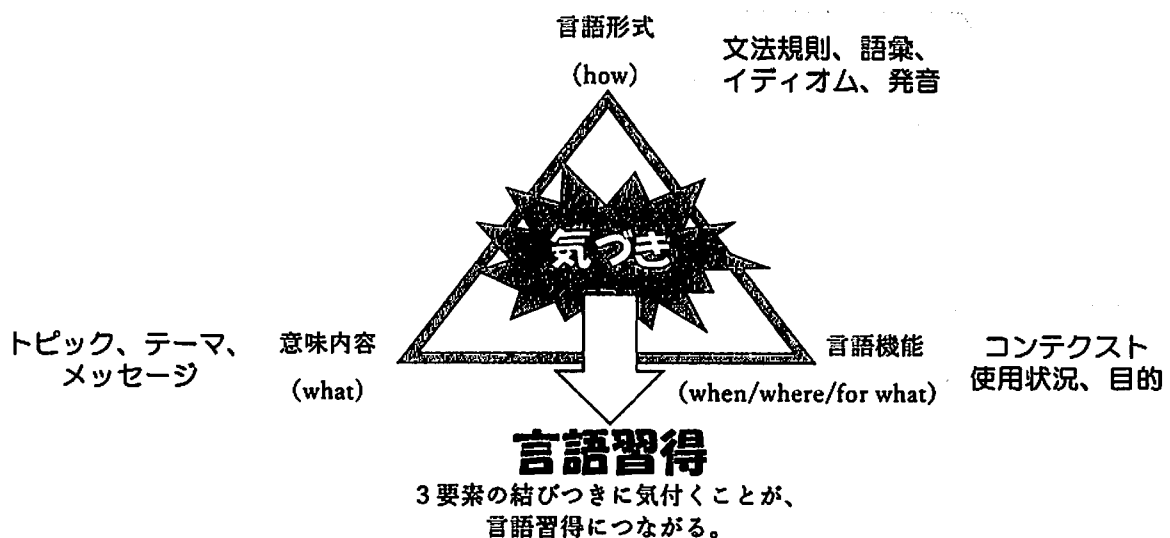
(3) フォーカス・オン・フォームを意識したスピーキング活動

① フォーカス・オン・フォームについて

フォーカス・オン・フォームとは、形式重視の教授法と意味重視の教授法の両者の問題点を克服するために考案された言語教育方法である。言語習得には3つの要素（言語形式・意味内容・言語機能）があり、フォーカス・オン・フォームでは、その3要素に十分に配慮して、意味内容を授業の中心に据えつつも、必要に応じて学習者の注意を形式に向けさせていく試みである。

また、フォーカス・オン・フォームの重要な概念として、「気づき」が挙げられる。フォーカス・オン・フォームは、言語本来の目的である意味伝達を優先に考え、その上で重要になってくる言語形式への気づきを支援する教育アプローチである。この「気づき」とは、学習者自身の中で自発的に起こる認知的な働きを指している。具体的には、言語形式・意味内容・言語機能の結びつきを認知することが、学習者の自発的気づきと言える。

言語形式：文法規則、語彙、イディオム、発音形式 など
意味内容：話題となるトピック、テーマ、伝えるべきメッセージ など
言語機能：コンテキスト、状況、使用目的 など



② フォーカス・オン・フォームにおける具体的な手法

実際に言語活動を行うなかで、生徒の注意を形式に向けさせるために意識した手法を以下に紹介する。

ア 文法・語彙の説明

活動を行うなかで生徒が難しさを感じていたら、すかさずタイムアウトを取り言語形式の説明を行う。その日のトピックにおける、意味内容・言語機能の中で、課題を達成するために欠かせない文法事項や語句についての簡単な説明を行う。

イ プロンプト

指導者の指摘によって、生徒自らが自分の間違いを訂正する。例えば、明確化要求や繰り返しなどがあるが、指導者がすぐに正解を示すのではなく生徒自身に考えさせて言わせるようにする。

ウ リキャスト

生徒の間違いを指導者が訂正して言い直してあげる。生徒の発話をリピートしてから訂正したり、訂正箇所をわざと強調してリキャストしたりするなどがある。

③ 実際の活動

ア 過去形・過去進行形を状況に合わせて正しく使い分けるための活動（5月）

「アリバイを崩せ！怪しいのは誰？」（資料4）

言語形式：過去形・過去進行形

意味内容：4人の先生の昨日の行動を伝える

言語機能：警部（部下）と情報を交換して犯人を特定する

授業展開：この活動は、過去形・過去進行形の復習として行った。あらかじめ、過去形・過去進行形についての簡単な説明と、問題練習を行ったうえで活動に入った。既習事項ではあるものの即興でのやりとりは難しいため、アリバイを伝えるための原稿をそれぞれ警部・部下役に分かれてさせてからペアでの活動に移った。机間指導をしながら口頭でプロンプト・リキャストによる英文の訂正を行い、最後にはすべて回収して英文のチェック・訂正を行った。

1. 先生と先生のアリバイを伝えるためのセリフを考えよう。（過去形・過去進行形を使って書く！）

① 先生バージョン

Mr. [] was reading a book in Family Mart at 9:40pm.

Mr. [] was eating dinner with his friend in Guster.

at 9:30pm.

Mr. [] was went home at 10:30pm.

帰宅したのは 11時.

Mr. [] home at 10:30pm.

② 先生バージョン

Ms. [] was watching TV at her home at 9:30pm.

Ms. [] was bought a ice cream in Family Mart at 10:00pm.

Ms. [] was went home at 10:30pm.

Ms. [] was with her friend talk on the phone at

過去進行形の文は正確に書くことができていたが、過去形の文にミスが見られる。（Be 動詞と動詞の過去形が1つの文の中に連続して使われている。）同様の間違いをしている生徒が多かったため、次の授業の最初に全体で言語形式の説明を行った。

●生徒の感想

- ・相手に分かりやすく伝えることが難しかった。
- ・相手の目を見て話すことが大切だと思った。
- ・英語だけで物事を伝えることが大変だった。
- ・でも分かってもらえたときはうれしかった。
- ・英語で伝えることはできたけど、相手の言っていることを理解することが難しかった。
- ・なんとかして伝えたかったので、いつも以上に英語を使うことができた。
- ・僕は全然英語ができないけど、友だちのおかげでなんとか犯人を見つけられた。
- ・何度も言い直したり、聞き返したりして、情報を交換できた。
- ・最初に書いたセリフ以外の英語をたくさん使えた。

イ Don't~!より丁寧な表現である must not を導入するための活動（6月）

「オリンピックボランティア役員と観客のスキットを考えよう」（資料5）

言語形式：must / must not

意味内容：①写真を撮ろうとしている外国人に「写真を撮ってはいけない」ことを伝える

②タバコを吸おうとしている外国人に「そこで吸ってはいけない」ことを伝える

③海で泳ぎたいという外国人の子どもに「今は泳いではいけない」ことを伝える

④売店に買い物に来た外国人に「現金で支払わなければならない」ことを伝える

言語機能：オリンピックボランティア役員として、外国からのお客様をおもてなしする。その中で、禁止事項や依頼の伝え方を考える

授業展開：本授業を行うまでに Let's Speak English を通して命令文（Do ~! / Don't~!）の復習を行った。本授業の導入部分で Do~!を使った命令文よりも丁寧な表現として must を提示した。簡単な言語形式の説明を行ったのち、それぞれの場面をイメージしやすいように4枚の写真を見せ、オリンピックのボランティア役員になったつもりで、スキットを考えさせた。授業の最後に、ペアでロールプレイングを発表させた。

生徒1

good!
You (must) not take picture here.
I have picture.
I have picture.
Oh, I'm sorry. Where can we take picture?
You can take picture there.
Ok Thank you.

ALT が来校した際に行った授業である。1時間で英文を書くところから発表まで行ったため、口頭での訂正（プロンプト・リキャスト）が中心となっている。授業の終わりにワークシートを回収し、再度英文の確認・訂正を行った。

生徒2

Excuse me. You must not take a picture here.
Ok. but why?
Because no pictures area here.
Oh, are you?
Yes.
Thank you for telling me.
You're welcome.

●生徒の感想

- ・人前で発表するのはとても緊張した。
- ・ボランティアに参加したいので、ちゃんと覚えて使ってみたい。
- ・こういう会話をきっかけに、外国人と親しくなれたらいいなと思った。
- ・僕の発表を聞いて、周りのみんなが笑ってくれてうれしかった。
- ・焦っていたら Don't~!と言ってしまうそう。Must を使って丁寧に伝えられるようにしたい。
- ・友だちと内容を考えるのが楽しかった。ジャスチャーなども考えた。

ウ 自分の意見を伝えられるようにする活動（7月）

「オリンピックボランティアのユニフォームを考えよう」（資料6）

言語材料：think that~

意味内容：ユニフォームのデザインについて伝える

言語機能：オリンピックボランティアの新しいユニフォームデザインをプレゼン形式で提案する

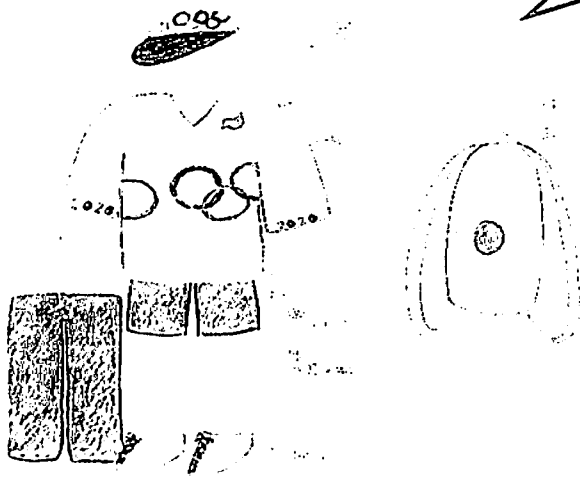
授業展開：言語材料の簡単な説明を行ってから活動に入った。オリンピックボランティアのユニフォームに関するニュース映像や、これまでの各国のユニフォームのデザインを見せることで、生徒が意欲的に取り組めるようにした。

First, we would like to show you uniform.

We used red, orange, yellow, and pink.

This is the Olympic rings and national flag in Japan.

It has the Olympic torches theme color.



英文の作成、発表練習、発表まで4時間かけて行った。うち2回はALTと一緒にいった。少々長い英文であったが、4人1グループで課題に取り組ませることで仲間と協力しながら最後までやり遂げた。メインの言語材料はthink that~であったが、仕上がった英文を見るとその使用頻度は低く、場面設定にもう少し検討が必要であったと感じる。

●生徒の感想

- ・英語は苦手だけどデザインしたりするのは楽しかった。
- ・前に発表したときよりもしっかり話せた気がする。
- ・またやりたい。もっと時間をかけて準備したい。
- ・家でも練習してきたので、なるべく前を見て言えた。
- ・実際にこのユニフォームを国に提案したい！
- ・日本の良いところがたくさん紹介できるようなユニフォームを考えたい。英語で伝えるのは難しかったけど、もっとすらすら話せたらいいなとも思う。
- ・今年の夏はダルスに行けるので、日本のことを話すのに役立つかなと思った。
- ・もうすぐ東京オリンピックだという実感がわいた。

(4) 家庭学習とリンクさせた語彙力向上に向けた活動

本校では、全学年共通して「家庭学習1日1ページ」のとりくみを行っている。それとリンクさせて、継続した文型練習を行っている。その中で、コンテキストと使うべき文法事項を与え、英文〇文で書くなどの課題に取り組ませた。

例)「今年の夏、ダルスにホームステイをすることになりました。自己紹介をしよう！」

文法項目：can ～することができる

Hello everyone.
 My name is [redacted] * Tx4ka = America
 I'm from Japan. I like America.
 I can play volleyball. I'm going to go shopping and
 Disneyland in America.
 I love America very much.
 I can't speak English well. So please help me.
 Nice to meet you. * Can + の
 ⇒ I can speak English well.

話す = speak

ALTと協力して、英文のチェックを行う。
 課題となる文法項目(can)の使い方に誤りがある場合には、指導者側から完答を提示するのではなく、生徒がもう一度考え、自分の力で訂正できるような支援の仕方を意識した。

5 結果の比較・分析

「英語学習」や「話すこと」に対する意欲については、4月初旬と7月中旬に行った同一の英語学習に関するアンケート、ALTとのスピーキングテストとその感想をもとに分析した。

(1) 英語学習に関するアンケートに見られる変容（資料8）

どの質問項目においても、英語学習への意識の向上が感じられる結果となった。これまで、生徒にとって英語学習そのものが目的であり、テストで点数を取ることが目標であった。帯活動としてのQ-A活動や、場面設定に重点を置いたスピーキング活動を通して、生徒たちは、英語学習は「コミュニケーション手段の1つ」であり、その先には「伝える相手」がいるのだということに気付いたのではないかと思います。それは、ポストテストの質問③における変容からも見て取れる。「話す」ことに対する意欲だけではなく、「聞く」ことへの関心が高まったことは、ひとつの大きな成果ではないかと思います。今回の研究を通して着実に生徒の英語を使うことへの意識は高まり、学ぶための土台が固まってきたと言える。この研究を皮切りに、今後はその土台の上にしっかりと知識を積み上げていかなければならないと感じている。

(2) スピーキングテスト結果とその後のアンケートに見られる変容（資料9）

アンケートのコメントから、多くの生徒たちがスピーキングテストに熱心に取り組んだ様子がうかがえる。次回のスピーキングテストに向けて、英語学習への意欲を示している生徒も非常に多かった。生徒自身の自己評価も前向きで、これまでの成果を感じることができている。例として挙げた生徒は、定期テストの成績は上位でありながら、コミュニケーション活動には強い難色を示していた。4月のスピーキングテストでは、ALTの“Can you speak English?”という問いかけに対し“No.”と答えていたが、7月には“Little.”に変わるなど、わずかながら前向きな変化が見られる。今後、力をつけていくためにさらにこの活動を発展、継続させていきたいと考えている。

6 成果と課題

(1) 成果

- ①継続的・系統的なQ-A活動により、生徒の英語学習への関心が高まり、英語で自己表現や状況説明をすることに意欲的になった。
- ②フォーカス・オン・フォームを意識した学習活動において、生徒が興味を持てるような場面を設定したことで、英語学習への関心が高まり、今後の学力向上のための土台ができた。

(2) 課題

- ①英語学習に対して苦手意識を持つ生徒に対する指導の手立てについては、今後も検討を重ねる必要がある。
- ②生徒どうしてスピーキング活動を行う際、指導者による口頭での訂正をどの程度まで行うのか、どこまで「正確性」を求めるのかについては検討する必要がある。

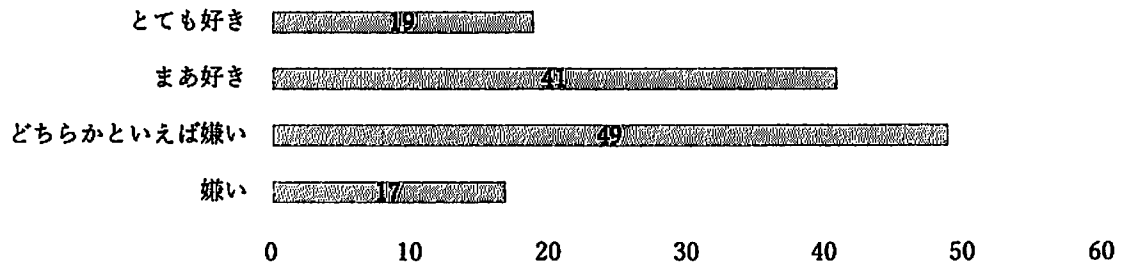
参考文献

和泉伸一(2016)『フォーカス・オン・フォームとCLILの英語授業—生徒の主体性を伸ばす授業の提案—』アルク

資 料

(資料1) アンケート結果 (4月実施)

①英語を学習することが好きですか。



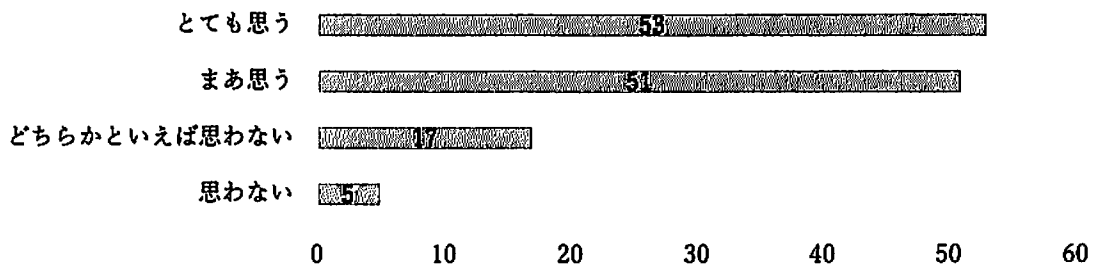
【とても好き・まあ好きと答えた理由】

- ・ダルース市の人たちと少し話せたとき嬉しかったし、英語が話せたらカッコいいから
- ・友だちとのペア活動が楽しいから

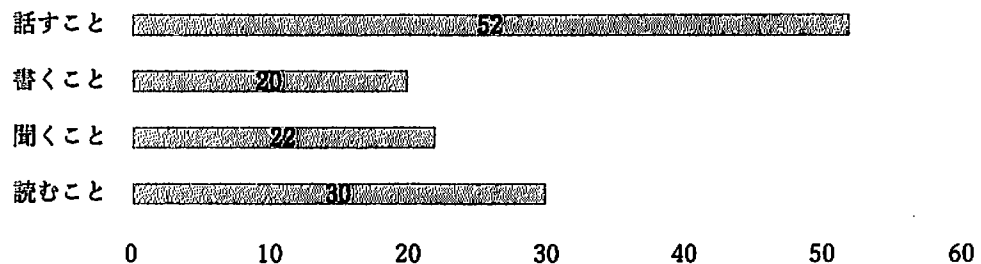
【どちらかといえば嫌い・嫌いと答えた理由】

- ・単語が覚えられないから、言っていることも書いてあることも全く分からない
- ・日本人なのに英語を勉強する意味が分からないから

②「将来役に立ちそうだから英語は勉強する価値がある」と思いますか。



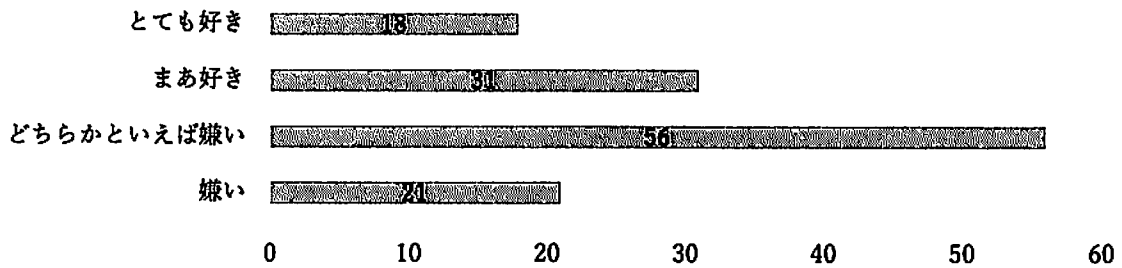
③英語学習において、一番身に付けたい技能はなんですか。



【話すことを選んだ理由】

- ・これから先、ある程度話せないと不便だと思うから
- ・世界中に友だちができたら楽しいと思うから
- ・話せたらカッコいいから

④英語の授業の中で行う、「話す」活動が好きですか。



【とても好き・まあ好きと回答した理由】

- ・話せたらカッコいいので、話せるようになりたいから
- ・言いたいことが通じるとうれしいから

【どちらかといえば嫌い・嫌いと回答した理由】

- ・文法や発音に自信がなく、間違えたら嫌だから
- ・頭の中で、言いたいことを英語に直せなくて、沈黙になるのが嫌だから

(資料2)スピーキングテスト 評価シート

Evaluation Sheet

Class: No. Name

- | | |
|--------------------------|--|
| ☐ | Q1 Hi, how are you? |
| ☐ | Q2 What is your name? |
| ☐ | Q3 How old are you? |
| ☐ | Q4 When is your birthday? |
| ☐ | Q5 Do you like Japanese food? (if no, skip Q6) |
| ☐ | Q6 What Japanese food do you like? |
| ☐ | Q7 Do you play any sports? (if no, skip Q8) |
| ☐ | Q8 What sports do you play? |
| ☐ | Q9 Can you speak English? |
| ☐ | Q10 Where do you live? |
| ☐ | Q11 How do you come to school? |
| ☐ | Q12 How many brothers and sisters do you have? |
| ☐ | Q13 What time do you usually get up? |
| ☐ | Q14 Are you an Ohara junior high school student? |
| ☐ | Q15 What kind of book do you like? |
| ☐ | Q16 What time did you go to bed last night? |
| ☐ | Q17 What did you do last night? |
| ☐ | Q18 Did you watch TV last night? |
| ☐ | Q19 How tall are you? |
| ☐ | Q20 What do you want for your birthday? |

/ 20

Any comment from Vong:

[illegible]

項目 (SUBJECT)									
①	得点の算出								
②	得意分野								
③	苦手分野								
④	得意分野と苦手分野								
⑤	得意分野と得意分野								

Let's speak English! Vol.5

How? を使って英語を話してみよう!

- ①Hi, _____ How are you? ①I'm fine. And you?
Very well. +1 _____
②How old are you? ②I'm 12 years old.
+1 _____
③How tall are you? ③I'm 155 tall.
+1 _____
④How do you come to school? ④I come to school by bike.
+1 _____
⑤How long does it take from here to your house? ⑤It takes about 10 minutes.
+1 _____
⑥How do you like Japan? ⑥I like it very much.
+1 _____
⑦How is the weather? ⑦It's sunny.
+1 _____
⑧How much is this book? ⑧It's 10 dollars.
+1 _____
⑨How long is this bridge? ⑨It's 250m long.
+1 _____
⑩Oh, I got to go!
"I got to go. 行かなきゃ!" ⑩Bye!

名前	国 (nationality)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
① 相手の名前を呼ぶことができますか?											
② 大抵のことはできますか?											
③ 相手のことをよく知ることができますか?											
④ 先生に質問することができますか?											

Let's speak English! Vol.6

Where? を使って英語を話してみよう!

- ①Hi, my name is _____. ①Hi, I'm _____.
②Where are you from? ②I'm from Ohara.
+1 _____
③What is Ohara famous for? ③It is famous for Isacbi.
+1 _____
④Where do you live? ④I live in Chiba.
+1 _____
⑤Where is your house? ⑤It's next to the post office.
+1 _____
⑥Where is Ohara station? ⑥It's over there.
+1 _____
⑦Is it near? ⑦No. It's very far.
+1 _____
⑧How long does it take? ⑧It takes 30 minutes on foot.
+1 _____
⑨Where do you go for shopping? ⑨I go to Tokyo for shopping.
+1 _____
⑩Thank you! ⑩Good bye!

名前	国 (nationality)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
① 相手の名前を呼ぶことができますか?											
② 大抵のことはできますか?											
③ 相手のことをよく知ることができますか?											
④ 先生に質問することができますか?											

Let's speak English! Vol.7

Can? を使って英語を話してみよう!

- ①Hi, how are you? ①I'm good. And you?
I'm good, too.
②Can you play the piano? ②Yes, I can.
+1 _____
③Can you swim? ③No, I can't.
+1 _____
④Can you ride on a unicycle? ④No, I can't.
+1 _____
⑤Who can ride on a unicycle? ⑤Natsumi can.
+1 _____
⑥Do you speak English? ⑥No, I don't.
But I can speak Japanese.
+1 _____
⑦What can you see in this picture? ⑦I can see many students.
+1 _____
⑧What else can you see? ⑧I can see two teachers.
+1 _____
⑨Can you wait a minute? ⑨Sure.
+1 _____
⑩Can I open the window? ⑩No, you can't.
+1 _____
⑪Thank you! ⑪Good bye!

名前	国 (nationality)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
① 相手の名前を呼ぶことができますか?											
② 大抵のことはできますか?											
③ 相手のことをよく知ることができますか?											
④ 先生に質問することができますか?											

Let's speak English! Vol.8

Should? を使って英語を話してみよう!

- ①Hi, how are you? ①I'm good. And you?
I'm good, too.
②Hey, don't smoke here! ②Oh, I'm sorry.
Where can I smoke?
+1 _____
③Study hard! You have a test tomorrow! ③I know! I'll study now.
+1 _____
④Don't swim here! Because of Jellyfish. ④ Ok, but why?
+1 _____
⑤Don't go outside! A big typhoon is coming. ⑤Okay, I won't.
+1 _____
⑥Which train should I take? ⑥Take the Sotobo Line!
+1 _____
⑦Thanks! I will get on the train at 11 o'clock. ⑦Wait! Don't take this train. This train doesn't stop at Ohara station.
+1 _____
⑧Can I use my credit card? ⑧Sorry, please pay with cash.
+1 _____
⑨Have a nice trip! ⑨Thank you.
+1 _____
⑩Have a nice day. ⑩You too. Good bye.

名前	国 (nationality)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
① 相手の名前を呼ぶことができますか?											
② 大抵のことはできますか?											
③ 相手のことをよく知ることができますか?											
④ 先生に質問することができますか?											

[illegible]

WS1(左)

アリバイを崩せ！怪しいのは誰？

一通り形・通な進行符を使って、正しい嫌疑者を突き止めて！



あなたは、警部の _____。ここ大塚の中学の校長室では、長日にかけて疑わねられてきた
甲賀がある。しかし昨夜10時頃、その甲賀が突然来るかによって殺害されたのだ。
犯人は、白昼、あなたと部下 _____ は、お泊りで4人の宿務生に事件の真相を与えた。
あることが、先生と先生を盗出し、部下の先生と先生を担当した。
部下と事件現場を見、真実を探るため、証人を捜索しよう！



★まだ知っている情報は、あなたから話し合います。

- * 部下に、先生と先生が何をしていていたのかをたずねよう。正しいことは下欄にメモしよう。

時刻	先生	時刻	先生
9:00pm		9:00am	
9:30pm		9:30pm	
10:00pm		10:00pm	
10:30pm		10:30pm	

- 部下が、先生と先生のアリバイをたずねます。正直、客観的事実を書いてください。

時刻	先生	時刻	先生
9:00pm	教室の机で勉強を見ていた	9:00pm	起7時学校に到着
9:30pm		9:30pm	
10:00pm		10:00pm	帰宅して時刻表を見ていた
10:30pm	帰宅から、お風呂に入っていた	10:30pm	自宅で勉強を見ていた

- あなたがその日の目撃者から得た情報とは、以下の通りです。部下と情報交換しよう。

- ① 先生のお部屋：10時頃、先生と夕食を食べていた。
- ② 先生のお部屋：10時30分頃、先生と寝てしまっていた。
- ③ 先生：先生が9時頃ファミマまで本を買って来た。
- ④ ファミマの店員：先生が9時30分頃、アイスを買った。

WS1(右)

アリバイを崩せ！怪しいのは誰？

一通り形・通な進行符を使って、正しい嫌疑者を突き止めて！

- 部下に先生と先生のアリバイを聞いて、メモしよう。
問答形式 「OO先生は、何時間していましたか？」
What was Ms./Mr. CC doing last night?
- 先生と先生のアリバイを伝えるためのセリフを考えよう。(通し符・通な進行符を使って書くこと！)
① 先生バージョン

② 先生バージョン

- その他目撃者から得た情報を伝えるためのセリフを考えよう。
① _____
② _____
③ _____
④ _____

お楽しみ問題～？

(資料5) must / must not 「オリンピックボランティア役員と観客のスキットを考えよう」

ボランティア役員と観客のスキットを作ろう！

【場面2】

外国人に、ここでタバコを吸っていいかと聞かれたあなた。ここは禁煙だと伝え、禁煙所まで送ってもらうようにお願いしよう。そのあとどんな会話が続くか、想像しながら書いてみましょう。



Foreigner : _____

You : _____

Foreigner : _____

You : _____

_____ :

_____ :

_____ :

_____ :

ボランティア役員と観客のスキットを作ろう！

【場面1】

あなたたちの前に、今まさに写真を撮ろうとしている2人の外国人カップルがいます。しかし、そこは写真撮影禁止エリアです。ボランティア役員のあなたは、写真を撮ってはいけないように英語で伝えなければなりません。そのあとどんな会話が続くか、想像しながら書いてみましょう。



You : _____

Foreigners : _____

You : _____

Foreigners : _____

_____ :

_____ :

_____ :

_____ :

ボランティア役員と観客のスキットを作ろう！

【場面3】

日本に来て初めての海を見たいという男の子。自分も海に入りたくなってしまったようです。海に向かって走っていく男の子を引止め、どこまで泳がせていいかわからないと伝えましょう。そのあとどんな会話が続くか、想像しながら書いてみましょう。



You : _____

Boy : _____

You : _____

Boy : _____

_____ :

_____ :

_____ :

_____ :

ボランティア役員と観客のスキットを作ろう！

【場面4】

日本の若い人は、儲けたい外国人にとっては辛いようです。売店には、飲み物を求めて買い物ができています。1人の男性が、クレジットカードで支払いをしたいと言いますが、ここでは現金で支払いしなければならないことを伝えましょう。そのあとどんな会話が続くか、想像しながら書いてみましょう。



Foreigner : _____

You : _____

Foreigner : _____

You : _____

_____ :

_____ :

_____ :

_____ :

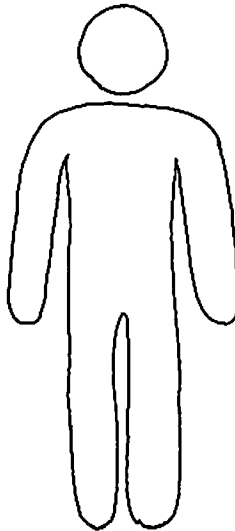
(資料6) I think that~「オリンピックボランティアのユニフォームを考えよう」

Program 3-3

Class No. Name

オリンピックボランティアのユニフォームを考えよう

—「私はこう思う！」と自分の考えを英語で伝えられるようにしましょう！—



その他のアイテム

(資料7) 各活動で使ったヒントカード

1 過去形・過去進行形「アリバイを崩せ！怪しいのは誰？」

机間指導を行いながら、支援が必要であろう生徒に声をかけヒントカードを配布した。

穴埋めをするのではなく、これを参考に英文を書いた。

(ヒントカード)

昨夜	last night	アイスクリーム	ice cream
ファミリーマート	Family Mart	電話で話す	talk on the phone
読む	read	店員	clerk
ガスト	Gusto	(テレビや映画を)見る	watch
食べる	eat	娘	daughter
夕食	dinner	お風呂に入る	take a bath
私の友達と	with my friend	家で	at home
帰る	come home	買う	buy

先生は夜9時頃、ファミリーマートで本を借りました。
Mr. [] books at the Family Mart around 9:00.

先生は夜9時半頃、ガストで友達と夕食を食べていました。
Mr. [] dinner with his friend at the Gusto around 9:30.

先生は夜10時半頃、お風呂に入りました。
Mr. [] around 10:30.

先生は夜9時半頃、自宅でテレビを見ていました。
Ms. [] TV at home around 9:30.

先生は夜10時頃、ファミマにいきました。アイスを買いました。
Ms. [] at the Family Mart and [] ice cream.

先生は夜10時半頃、友達と電話をしていました。
Ms. [] with her friend on the phone.

グオの店員は夜10時頃、先生と話をしていました。

The clerk at Geo [] with Ms. [] around 10 pm.

先生のお友達は、夜10時頃先生と映画を見ていました。

Ms. []'s friend [] a movie with her.

先生は、夜9時20分頃、まだ寝ていません。(Not work)

Ms. [] around 9:20.

先生は、10時半頃までお風呂に入っていました。

Ms. [] at home around 10:30.

- 2 must / must not 「オリンピックボランティア役員と観客のスキットを考えよう」
 ラミネートをかけ、手のひらサイズのヒントカードにした。JTEとALTがヒントカードを持ちながら机間指導を行い、英文を訂正する際に使用したり、アイデアが思い浮かばない生徒を支援した。

1、会話の内容に困ったら… ① 写真を探ろうとしているカップルに声をかけ、「ここで写真を撮ってはいけない」ことを伝えよう (What? I want to take a picture. Can I here?) ② 「どうして？」と理由を、必ず聞かれるかもしれません ③ 理由を覚えて、説明しよう (Because ~) ④ 「わかりました」と理解してくれるはずです (I see. OK) ⑤ 「どこで写真を撮ることができるか」必ず聞かれるかもしれません (Where ~ can I ~?) ⑥ 写真を撮ってよい場所を覚えておきましょう ⑦ 音楽に一生かけられるとよいですね Have a nice day.	1、会話の内容に困ったら… ① 写真を探ろうとしているカップルに声をかけ、「ここで写真を撮ってはいけない」ことを伝えよう (What? I want to take a picture. Can I here?) ② 「どうして？」と理由を、必ず聞かれるかもしれません ③ 理由を覚えて、説明しよう (Because ~) ④ 「わかりました」と理解してくれるはずです (I see. OK) ⑤ 「どこで写真を撮ることができるか」必ず聞かれるかもしれません (Where ~ can I ~?) ⑥ 写真を撮ってよい場所を覚えておきましょう ⑦ 音楽に一生かけられるとよいですね Have a nice day.
今日のポイント① 「～しなければならない」 must + 動詞の原形	今日のポイント② 「～してはならない」 must not + 動詞の原形 ※ 否定文にするときには must のあとに not

- 3 「オリンピックボランティアのユニフォームを考えよう」

ユニフォームの良さが伝わるように説明しよう

今回のキーワード think that : ～だと思います。

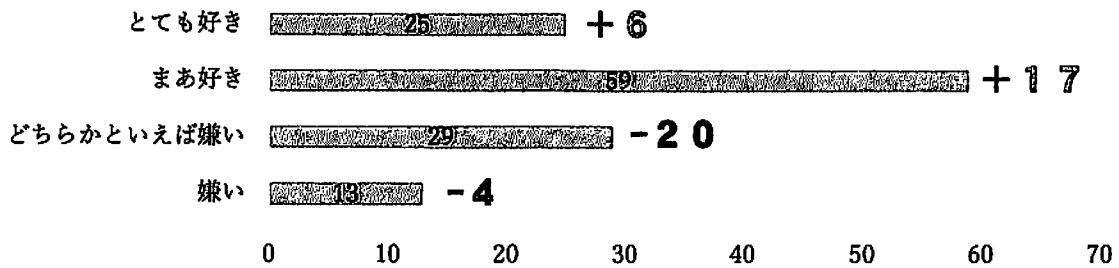
①あいさつ
 みなさん、こんにちは！
Hello, everyone!

②自己紹介
 まずは自己紹介をさせてください。私は～です。
Let us introduce ourselves first. I'm ~.

③プレゼンテーションの内容
 オリンピックボランティアの新しいユニフォームデザインを提案します。
We would like to propose our new designs for the Olympics' volunteers. ※would like to ~: ~したいと思う
 まずは～、1/2つ目に～、1/3つ目に～
First, ~ / Second, ~ / Third, ~
 ～を(ユニフォーム・ぼうし・バッグなど)紹介したいと思います。
We would like to show you ~.
 私たちは、～が必要だと思います。なぜなら～だからです。
We () we need ~ because ...
省略した部分
 私たちは、～は重要だと思います。なぜなら～だからです。
We () is important ~ because...
 ○色、○色、○色を使っています。
We use ~, ~ and ~.
 私たちが○色を選んだのは～だからです。
We chose ~ because ...
 これは～を意味します。(ユニフォームの柄やマークなどを説明するために)
It means ~.
 私たちは～に～を描きました。
We draw ... on ~.
 ご清聴、ありがとうございました。
Thank you for listening.

(資料8) アンケート結果 (7月実施)

①英語を学習することが好きですか。



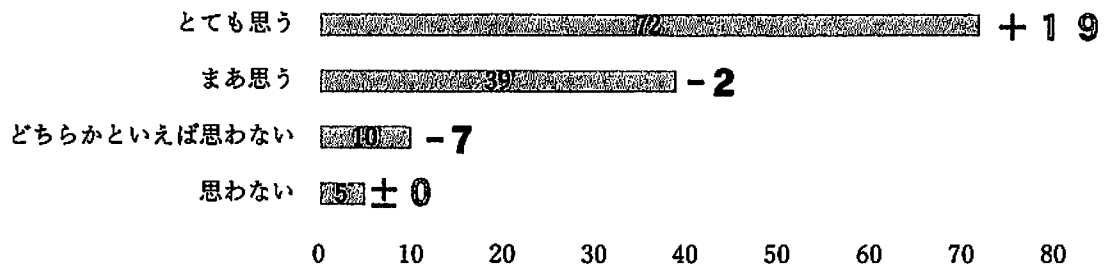
【とても好き・まあ好き】

- ・いろんな人と出会って話ができたら、自分の世界を広がると思うから
- ・英語は苦手だけど、誰かに教えてもらえることが多くなったから

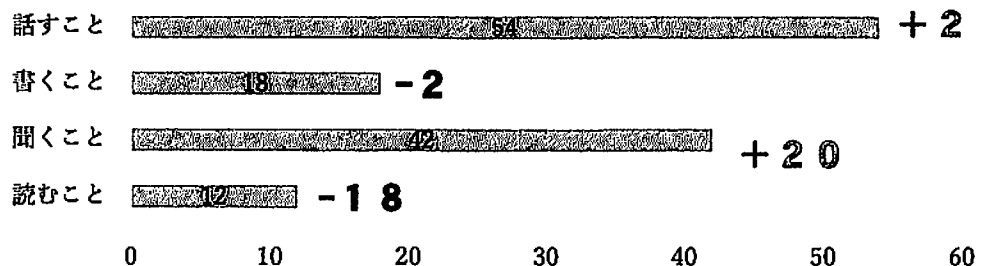
【どちらかといえば嫌い・嫌い】

- ・楽しい時もあるけど、やっぱり分からないから

②「将来役に立ちそうだから英語は勉強する価値がある」と思いますか。



③英語学習において、一番身に付けたい技能はなんですか。



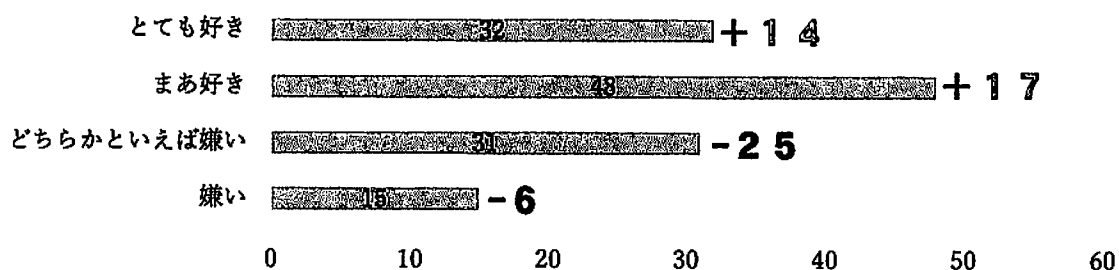
【「話すこと」と答えた理由】

- ・オリンピックのボランティアをやりたいから
- ・友だちと話したりするのが楽しかったし、もっと話せるようになりたいから
- ・英語はコミュニケーションの道具で、話せることが大切だと思うから

【「聞くこと」と答えた理由】

- ・話せるようになるために、まず相手の言っていることが理解できないとダメだと思った
- ・自分の言いたいことを言うだけでは、会話が続かないから聞けるようになりたい

④英語の授業の中で行う、「話す」活動が好きですか。



【とても好き・まあ好きと答えた理由】

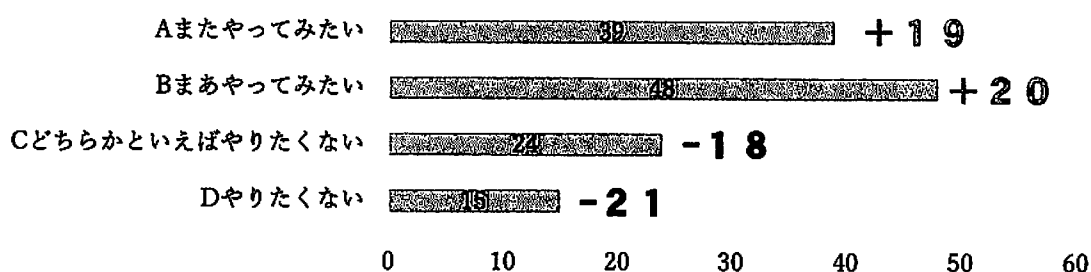
- ・ Let's Speak English が楽しいから
- ・ 書くことはむずかしいけど、話すことならできるかと思ったから

【どちらかといえば嫌い・嫌いと答えた理由】

- ・ グループでの活動は、みんな助けてくれたけどずっと足手まといで嫌だったから
- ・ 英語が全く読めないから

(資料9) スピーキングテスト後のアンケート結果 (7月実施)

「また英語で話してみたいですか？」という質問に対する生徒の評価 (A/B/C/D) と理由



【A と答えた生徒】

- ・ 4月よりもスムーズにできたし、たくさん答えられてうれしかったから。
- ・ 前と比べたら、意外と答えられてびっくりしたから。
- ・ 合っていたか分からないけれど、黙らずに会話を続けられたから

【B と答えた生徒】

- ・ 4月よりすらすらできた。相手が言っていることをすぐ理解して返せるようになりたいから。
- ・ 意外と話せたし、Vong 先生の言っている内容も理解できた。

【C と答えた生徒】

- ・ 思ったよりもできなかった。自分は英語が苦手なんだと痛感した。

【D と答えた生徒】

- ・ 何を言っているのか全然分からなかったから